

第4節 くぬぎ山地区の課題

平地林の荒廃

くぬぎ山地区の平地林は、長い間、農家の日常生活のための薪や建築材の供給源として、定期的な伐採更新が繰り返されるとともに、堆肥の原料を得るためのくず掃き(落ち葉掃き)や、そのための下刈りなどが行われてきた。

しかし、化石燃料や化学肥料の普及により、農家の日常生活での平地林の役割の多くが失われたことや、非農家や近隣に居住していない土地所有者の増加によって、平地林の荒廃が進んでいる。

平地林の利用低下に伴う荒廃は、廃棄物の不法投棄等をもたらす一因にもなっており、土地所有者や市民団体、行政による撤去が繰り返し行われているものの、不法投棄は後を絶たないのが現状である。また、アカマツの枯損も進行しており、倒木が目立つ場所も多くなっている。

平地林の改変

農家の日常生活での平地林の役割の多くが失われたことは、平地林の荒廃を招くと同時に相続等を契機とした土地の売却につながり、その結果として平地林の改変が進行した。平成14年現在、くぬぎ山地区の樹林地は約70%へと減少し、残りの約30%は住宅、資材置場、廃棄物処理施設、工場倉庫、墓地などの非樹林地が占めている。近年においても廃棄物処理施設の拡張や残土投棄などによる平地林の改変が依然として進行している。こうした平地林の改変の抑制や既に改変された土地の復元が重要な課題となっている。

生物多様性の保全

萌芽更新のための伐採や下刈り、落ち葉掃きなど、平地林に対する人のかかわりは、平地林特有の生態系の成立に寄与し、生物の多様性が維持されてきた。しかし、平地林の改変の進行は、動植物の生息環境を脅かし、生物の多様性の低下につながるものが懸念されており、生物の多様性の保全が課題となっている。

ニーズの多様化

平地林の改変が進んだ理由の一つとして、周辺地域の都市化の進行に伴って生じた、資材置場等の都市的な土地需要の高まりが挙げられる。その一方で、くぬぎ山地区は、環境問題に対する県民意識の高揚により、都市近郊の環境保全活動の対象地としても注目され、自然環境学習や余暇活動の場としてのニーズが増加しつつある。このようにくぬぎ山地区に対する多様化したニーズにどのように対応するかが課題となっている。